岡崎市制100周年記念事業
岡崎まちものがたり：六ツ美南部 L-20

参河志(上巻)

この資料は「参河志(上巻)」からの抜粋である。

参河志(上巻)
復刻日：昭和54年12月25日
発行所：愛知県郷土資料刊行会　発行者：生田良雄

参河志(上巻)
昭和8年11月15日改正再販発行
発行所：幡豆郡教員協会、発行者：近藤　裕

参河志(上巻)は、第1巻（章）から第21巻まである。その中で、第11巻碧海郡（上)、第12巻碧海郡（下)、第15巻額田郡（上)、第16巻額田郡（下)、第17巻幡豆郡を中心に抜粋した。碧海郡では六ツ美を中心に、額田郡では、浦邊、坂左右を中心に、幡豆郡では、六ツ美と接する羽角、浅井、小島、江原、貝吹、永良を中心に抜粋した。

又曰日子座王娶近淡海之御上祝以伊都玖此三字以音 天之御影之女息長水依比賣子生丹波比古多多須美知能宇斯王或記云

酒人天神

古事記傳二卷五十一丁 酒人君等祖也大郎子亦名意富杼王大雀帝仁德天皇 皇子也

三河國君波多君坂田君酒人君山邊居筑紫之米多君布勢君等之祖

古事記傳二十二卷四丁 鬱色雄命 鬱色謎命 大綜杵命 大峯大尼命此四人母は坂戸田良都姫とあり是を以て考ば今坂戸といふも因なり

神明名帳 從五位下酒人天神 式内座 碧海郡

本社南向二間四方瓦葺木鳥居あり社地人船の形をなせり其地名を三本木と云松二株加條木一株ありしと云云

日長神社 石長姫命

古事記云二十五卷三十五丁 肥長比賣美濃國花長神社 日火也日長姫石長姫也

按大山津見之女石長比賣軻遇突知血染於石礫草木汝石含火之緣也

以上延經神主首書抄出

和漢三才七十卷十二丁 越前日永嶽神社 在日永嶽

祭神 飯縄(イツナ)權現 六月二十六日より至二十八日男女參詣群集す其外日不登山

日本紀一書曰 伊弉諾尊斬軻遇突智命爲五段此各化爲五山祇一則首化爲大山祇二則身中(ムクロ)化爲中山祇三則午化爲麓山祇四則腰化爲正勝山祇五則足化爲鵜山祇是時斬血激灑染於石礫樹草此草木沙石自含火之緣也

古事記云於是天津日高日子番能邇邇藝命於笠沙御前遇麗美人爾問誰女答曰之大山津見之女名神阿多都比賣此神名以音 亦名謂木花之佐久夜毘賣此五字以音 又問有汝之兄弟乎答曰我姉石長比賣在也爾詔吾欲自合汝奈何答曰僕不得白僕父大山津見神將白故乞遣其父大山津見神之時大歡喜而副其姉石長比賣令持百取机代之物奉出故爾姉者因其凶醜見畏而返送唯留弟木花之佐久夜比賣一宿爲婚爾大山津見之神因返石長比賣大耻白送言我女二竝立奉由者使石長比賣者天神御子之命雖雪零

鳳吹恒如石而常堅不動產亦使木花佐久夜比賣者如本花之榮座宇氣比氐自字下四音以音　貢進

古事記曰仁爾出雲國造之祖名岐比佐都美飭青葉山而立其河下將獻大御食之時其御子詔言是於川下如青葉山者見山非山若座出雲之石堅之曾宮葦原色許男大神以伊都玖之祝大廷乎問賜也爾所遣御伴王等聞歡見喜而御子者座檳榔之長穗宮而貢上驛依爾其御子一宿婚肥長比賣故竊伺其美人者蛇也即身畏逃逃爾其肥長比賣患光海原自船追來故益見畏以自山多和　二字以音引越御船行於是覆奏言因拜火神大御子物詔故參上來天皇歡喜即返茀上王令造神宮於此天皇因其御子宅烏取部烏甘部品遲部大湯座若湯王又隨其后之白喚上美知能宇斯王之女等比婆須比賣命次弟比賣命次歌凝比賣命二柱其弟王二柱者因甚凶醜返送本土於是圓野比賣慚言同兄弟之中以姿醜被還之事聞於隣里是甚慚而到山代國之相樂時取懸樹枝而欲死故號其地謂懸木今云相樂又到弟國之時遂墮峻淵而死故號其地墮謂國今云第國也　按に今乙訓

文德實錄云　仁壽元年冬十月乙巳三川國日長神授從五位下

或記云　日長明神

神明名帳　從四位下　日長明神　式內座　碧海郡

古事記傳十一卷六十二丁　此神娶日名照額田毘道男伊許知邇神日名照は上なる建比良烏命を書記に武日照命ともある日照に同じ出雲國神門郡比奈神社隱岐國知夫郡比奈麻治比賣命神社あり

愚按爾　額田郡日名にはあらざるか碧海額田兩郡の堺なれば日名かと思はる長を十の假名に用ひし例は倭名鈔に越前國坂井郡長畝（ナウネ）奈字誤　伊豆國伊波九比咩神社今巖長姫の神社と云　又ノとナと通音の例あり

書紀二十五卷八丁　長柄豐崎とあり同卷三十四丁　にも見えたり柄はカラと訓ず眞柄矢柄（マカラヤカラ）の類なり

古事記傳二十五卷三十五丁　志那都比古を級長津彦とも稱する類にて長を那と云例なり

又按に　日名照額田毘道男神を祭る故に處を日名と云其郡を額田と云ふも因あると思はる

日名村本社二間四方瓦葺平屋根拜殿桁三間梁二間瓦葺南向なり石烏井　九尺

或曰　中島村社不見其據

愚按に　日名に日並(ナラヒ)の略語にはあらざるか

古事記傳五卷四丁　伊豫の二名島此名義は名は借字にて二並(フタナラヒ)なり

書紀應神卷大御歌に　アハジシマ　イヤフタナラビ　アツキシマ　イヤフタナラビ　ヨロシキシマ　シマ　これは淡道と小豆島と並べるをよみ給へるにて二並てふ言の證なり此に據て考れば日名の神社は月夜見尊を祭るにはあらざるか

日本紀神代の卷に　月夜見尊者可以配(ナラベテ)日而知天事也配日を略して後代日名と呼かと思はる後人の考の一助にもならんか

愚按を記す

按尾張國神名帳云　知多郡日長天神あり或曰日長社は知多郡森村にあり此地上古は三河なりしが後に尾張に屬たるなり云故に近年朝廷より神位を賜りたる神位記には三河國と書給ひたりと云天保の頃右の神主始て官位昇進の時尾張殿え申上るに三河國式社なりと申す留帳に記さる又昇進の歌にも此よし仰上ると云云

知立神社　木花知流比賣三才圖會六十九卷驛明神在池鯉鮒社領十石自四月下旬至端午日於此有馬市

今知立作池鯉鮒

古事記云　八島士奴美神娶大山津見神之女名木花知流此二字以音　比賣

以上延經神主首書出

舊事記乃相與遭合爲妃所生之兒大已貴神矣亦名八島士奴美神

古事記云　八島士奴美神娶大山津見神之女名木花知流此二字以音　比賣生子布波能母遲久奴須奴神

文德實錄云　仁壽元年冬十月乙巳進三川國知立祇廐兩神陞加從五位下

三代實錄云　貞觀五年式社六年二月十九日丙授三河國從五位上知立神祇廐神並正五位下

又云　貞觀十八　丙申年六月八日癸丑授三河國從四位下知立神祇廐神並從四位上

神明名帳　正一位知立大明神　式內座　碧海郡

或云　祭神鵜葺葺不合尊

參河志第拾壹卷

三河　渡邊政香輯錄
男　政幹校正

碧海郡（上）

政香曰今の地理に依れば無序是は三河鄉帳の次第を據として記す後此に倣へ

村名

大濱　棚尾　鷲塚　米津　藤井　三木　木戸　中島
在家　下和田　野畑　井内　上和田　宮地　法性寺　牧御堂
土井　福桶　下青野　赤澁　中之鄉　上青野　合歡木　高落
川崎　小川　寺領　野寺　中根　城ケ入　東端　西端
高鳥　高濱　吉濱　小垣江　本刈谷　熊　高津浪　小山
泉田　今岡　駒塚　西境　井谷　一色　南茄生　北茄生
黑篠　浮谷　宮口　大林　渡苅　中島　中切　川端
宗定　北野　森越　橋目　遍越　中園　矢作　渡
東牧内　佐々木　村高　島　川野　櫻井　土井　堀之内
泉　榎前　高棚　野田　重原　築地　一木　八橋
池鯉鮒　東堺　堤　明知　三吉　打越　本地　土橋

古城　清康公御舎弟松平十郎三郎康孝早世　兄内藏人信孝天文十二癸卯六月落城走尾州又村越茂助此處に住す二葉松　按後風土記本願寺一揆の節松平與十郎忠清舎弟九郎右衛門忠利籠る云一本に信忠公息信康公と云山崎村に城を築き廣忠公御代天文十七年四月十五日明大寺耳取縄手にて大場彌五兵衛半弓にて射殺す

木戸村　高五百三拾石七斗五升　同

古城　二ヶ所内成一ヶ所宮地　石川式部　同太郎五郎　出生記

成瀬藤藏正義　藤左衛門正頼の子隼人正成の父なり成瀬は二條の關白良基公の後胤頴田郡六名村に住す悉く三川水に出す

於味方原討死　二葉松三河堤同上

同藤九郎　後吉左衛門隼人正正成なり今尾州家に住ふ三万石なり　同國犬山城餘領悉は三川水に出づ

中嶋村　高千四拾八石八斗六升

内　壹石　淨光寺領　拾石　長圓寺領

三拾石　崇福寺領　拾石　神明領

拾石　小園神明領　三石　住吉大明神領

殘高九百八拾四石八斗六升　板倉内藤正

板倉彈正重定　出生記傳に曰中嶋の城主由良討死の後主殿頭忠景吾之嫡子忠定深溝の大場を討て深溝に移り中嶋には板倉彈正を置けり然に永祿三四か年板倉彈正吉良荒川と一味す家康公以御下知大炊頭好景深溝を發して中島を攻む板倉不叶して中島を退き岡の城に籠る其後岡の城へ御出馬有御責玉ふ故板倉又岡を捨て去る

武家系圖に云　板倉彈正滿賴三州岡村に居住す云々又云滿賴の子重定板倉李後彈正と號中島の城主松平大炊助好景に被攻終に降り成家人と云

按るに由良を討て彈正を置とは父滿賴彈正にして好景に被攻し時は父子共に當城に住し落城の後岡へ移り岡も又大神君に被攻子の重定　後の彈正　初て好景の家人となり小美村に居住せし者ならむ自是三代深溝家の徒軍歟悉は三川水に出づ

永祿四年辛酉落城　家忠日記曰永祿四年二月七日此日大神君松平大炊助好景家忠祖父に命て中島の城主板倉彈正を攻撃せしめ玉ふ板倉拒く事を得ず岡の城に走ると云云

創業錄二卷　松平大炊助好景を首將とし八名郡中島城主板倉彈正守定を攻て陷さしめ玉ふ板倉尙又額田郡岡の城に楯籠る神君躬づから攻之玉ふ板倉遂に城を棄て東參河に走る神君以長島長良二郷好景に賜之

古今万寶雜記曰　中島村數代城主藤原朝臣由良與太郎光兼大永元辛巳年三月六日卒葬于崇福寺

息甚次郎光家跡嗣　光家息孫八郎光重時乱世弘治二丙辰年春深溝松平大炊介好景中島に出馬由良光重の城に押寄相戰城內勢微而討負大炊介家臣稻石次郎右衛門と申侍討取光重自是大炊介中島城板倉彈正を差置く

▲源義家八幡太郎
- 義國式部大輔
  - 義康足利陸奥新判官
    - 義兼足利上總介
      - 義氏足利左馬介正五位下
        - 泰氏足利宮內少輔從四位下
        - 頼氏足利尾張三郎從五位下
  - 家氏足利左衛門尉
    - 義顯澁川二郎板倉刑部少輔初て板倉と稱す以上大系闕
      - 義春澁川二郎三郎
        - 貞頼澁川彦三郎丹波守
          - 義季澁川又三郎從五位下刑部太輔建武二年七月相模次郎時行鎌倉を攻るの時義季於武州狙之と、も不利して於女影原に討死
            - 貞頼澁川太郎從五位下中務大輔
            - 季頼板倉次郎父義季討死の後戰塲を遁れ赴他邦
              - 義行板倉左兵衛佐
                - 蒲頼板倉彈正左近將監三州八幡に來る居住す
                - 重定板倉杢後彈正中島城主松平好景の家人と成後三州小美村に住す武家系圖は義堯
                - 頼重板倉八右衛門汝々清庵
                - 忠重板倉杢左衛門天正十二年卒
                - 是より神君臣
                - 勝重四郎左衛門從五位下伊賀守自幼神倚と成りしを或年板倉一族皆戰死す依欽命還俗す五百石賜ふ慶長八年欽命京都所司代を勤め二万石を賜
                - 定重喜藏天正五年十月古遠州小山城に討死す
                - 重宗周防守從四位少將京都所司代六万石を賜ふ此人の智謀勇才衆に不劣今世以て知之
                - 重鄕阿波守五万石を領父の家督
                - 重常隱岐守
                - 重冬周防守當時備中松山城五万石

重形 伊豫守 一万石分知　重同 伊豫守 當時上州安中二万石

重昌 内膳正寛永十五年正月朔日肥州島原に於て爲土民討死

重大 市正

重利 主水正父の家督を繼段々立身して六万石を賜ふ

重直 筑後守八千石を賜ふ 悉くは三川水に出づ

重良 伯耆守 三万石分知

重通 内膳正 三万石分知

重相 越中守當時歸中國庶瀨二万三千石今二万石

重寛 甲斐守當時奥州福島 三万石

次に松平大炊介好景　大神君に奉仕住深溝永祿四年春奉欽命中島城主板倉彈正を攻て是を破る依其功中島長良兩郷を賜る於是息主殿介伊忠を中島に置く同年東條吉良義照大神君に叛く好景欽命に依て是を襲ひ屢戰有功長良繩手に於て討死す永祿四年四月好景の嫡子伊忠兵を率して同國上野の城酒井將監を攻同十五日吉良義照中島の勢上野に分て遣すに依微なるを聞て俄に中島に出兵圍城を好景深溝に出て後を討つ敵忽ち破れたり好景是を追て善明堤に至る于時土呂城より吉良を援て競ひ來り好景を圍む好景勇をふるひ力戰すとも勢微にして終に戰死す于時四十四歳好景系傳深溝の下に出す　三川水に悉し

在家村　高百八十石　板倉内膳正領

在家村古屋敷石川大隅守　二葉松

出生記云　石川八左衛門と云同人か　按に皆小山下野守政泰の子孫なり八左衛門は三ッ太郎家種祭なり

愚按に三輪彦四郎家に大神君肖像並御添狀有之世に希有の圖なり

下和田村　高三百七拾三石三斗五升　板倉内膳正領イ岡崎領

古屋敷　松平兵庫　二葉松

二葉松云　古城左野右馬助天文年中清康公へ仕官又加藤帶刀住之

野畑村　高四百貳拾一石壹斗一升　岡崎領

二葉松　一本曰　佐野圖書佐野小太夫黑柳庄介高橋善左衛門内藤半右衛門

三川堤の古城佐野右馬之助天文年中清康公へ仕官

參河志第拾五卷

三河　渡邊政香輯錄
男　政幹校正

額田郡（上）

額田郡は額田鄕より出し名なるべし

八鄕　倭名鈔

新城　今仁木村あり新田の例にて音便にいへるか

鴨田　今同名村あり

位賀　今伊賀あり又伊賀谷村あり

額田　未知其處然れ共今岡崎領六つに分て手長六つあり其中に額田手長あり其中に額田鄕あるべし後人の考をまつ

廐津　今馬頭村あり

六名　今六名村あり

大野　今大井野村あり

驛家

額田郡鄕名

岡崎八丁　肥名　下大門　上大門　上之里　岩津

仁木　細川　桑原　奥殿　丹坂　恵田　奥山田

八木　磯部　東藏前　西藏前　藪田　大樹寺　鴨田
井ノ口　百々　西阿知和　東阿知波　眞福寺　駒立　大賈
日影　渡通津　柳　須山　かぶらき　外山　保久
一色　新井　中法久　小丸　安戸　米河内　瀧
能見　伊賀　井田　稲熊　大井野　藏並　箱柳
おろう　田口　板田一作坂田　中畑　岩屋　井ケ谷　大林
彦尾　桃久保　小楠　麻生　赤田輪　切山　上下げろう毛呂
柳田　竹のそれ澤連　笠井　木野下一に木下　平針　寺平　柿平
鬼澤　寺野　切越　南澤　大河　法見　大山
土ト村　鍛冶谷梶谷　高すすき高薄　須淵　岩戸　西畑今西瑞　栗木
友トモ久ホウ　保母　生平　蓬生カハ　櫻井寺　こぶ　樫山
片寄　宮崎　淡淵　烏トウ川　瀧尻　鵜巣二葉松鳥巣　牧平
下衣文　大幡　上衣文　本宿　鉢地　山綱　羽栗
桑谷　荻　深溝　芦野谷　横落　岩堀　鷲田
高力　坂崎　大草　久保田　長嶺　大オウ谷ヤ　馬頭
簑川　尾尻　龍泉寺　舞木　市場　地金　藤川
岡　平地　生田　小美　丸山　高隆寺　をく洞
かけ　大平　なぐり　明大寺　くご　六ッ名　戸崎
はね　橋樂　春崎　山畑　若松　上地　土呂
北永井　高須　浦邊　坂左右

浦邊村

愚按三川堤には碧海郡に入二葉松及郷帳に額田郡に入今隨之　高千二百七十八石八斗九升

古城　渡邊源治郎七郷と道綱　是三州へ來り渡邊黨の元祖也

按に浦邊七郷と云は非也四郷也所謂四郷は正名中村國政定國

渡邊玄蕃　出生記に出

同八右衛門　同上按八右衛門義綱也初八郎三郎と號す寛永系圖に三州碧海郡赤澁村に住す然れども二葉松及出生記等不見得

曰奉仕廣忠卿大權現天文九年六月六日於三州於安城守一方城門財敵不可勝計以是敵不能進之同十八年十一月二十二日攻三州上野城於南端城出郡射敵又自尾州攻三州浮貝城之時爲加勢在浮貝射倒早川藤太夫永祿十二年五月二十六日於赤澁村死す七十三歳

渡邊八郎兵衛　同上

同半藏　同上　寛永系圖に云半藏守綱後忠左衛門天文十一年生浦邊十六歳にて奉仕大權現三州八幡合戰の時味方誓く失利守綱一人止而突敵五六十人公大感之被召鎗半藏永祿六年一向宗一揆の時依彼宗門與一揆御免の後父の領浦邊之内定國百貫之地賜其後無幾程而加賜同國正三十貫地を同十二月掛川攻姉川合戰一言坂退口三方原皆有功其後賜遠州濱名郡吉美七十貫豐田郡立野三十貫合百貫の地天正十八年八月關東御入國之時賜武州比企郡三千石を都合五千石天下一統之時於江州坂田郡加賜一千石慶長十五年以彦坂九兵衛爲御使蒙守綱及息重綱共可屬尾州義直卿之鈞命若不應心則可歸付於是於三州加茂郡賜五千石又於尾州五千石武州江州如元合一万四千石也大坂兩度勤義直卿之先手元和六年四月九日於尾州死　七十九歳　法名道喜

五十二代

▲嵯峨天皇御諱賀美能　桓武大皇第二皇子

融公　從三位　左大臣

昇　正三位　大納言

仕　從五位下　武藏守

充　寛田源治

宛　同

綱　渡邊源治瀧口内舍人母の胎内にて父に後れ伯母に養れ摂州渡邊に住す

久　渡部判官

安　源治別當

正　源治

滿　渡部

省　同播摩治郎

與　渡邊右馬允

授　兵衛尉　隨摩守

繁　豐後守

兼　瀧口左衛門尉渡邊武者所

- 經　次郎左衛門尉
  - 企　左衛門尉
    - 俊忠　源六箕田兵衛尉
      - 忠房　刑部亟
        - 滿綱　渡邊右馬允
          - 元綱　源治左衛門
            - 賴綱　源治左馬允
- 安綱　源左衛門
  - 道綱　源次三州浦部に移居住す
- 國綱　半七郎　後清左衛門
  - 行綱　半七郎　後清左衛門
    - 春綱　半七郎　奉仕大神君
- 範綱　源太左衛門浦邊に住す　享祿三年於三州下地討死
  - 氏綱　次郎四郎生浦部父討死す　於其地討仇而獲其首
    - 照綱　助右衛門　於三州安城戰死
    - 景綱　左衛門五郎
      - 時綱　左衛門五郎
    - 遠綱　半六後六郎左衛門　奉仕清康公廣忠公大權現
      - 眞綱　半六後六郎左衛門生浦部　一向一揆に與す後又御免にて奉仕
    - 生綱　平六後六左衛門　十六歳にて初奉仕大權現
      - 直綱　平六後六左衛門十四歳にて　奉仕台德公三百石を賜
        - 盛綱　平六　奉仕大猷公
- 有綱　源市後源兵衛住赤澁村　仕清康君廣忠君
  - 長綱　甚五郎後清兵衛　奉仕清康君
    - 沖綱　源次　奉仕大神君
  - 義綱　八郎三郎　後八右衛門
    - 秀綱　八郎三郎
      - 康綱　仁兵衛
      - 雅綱　加平
- 高綱　源五左衛門生三州浦邊興一向宗　永祿七年正月十七日於針崎討死
  - 守綱　半藏後忠左衛門　生浦部
  - 重綱　半藏後忠左衛門生浦邊　仕義直卿七千八百石を領

興綱 藤藏 永祿四年於下和田討死

政綱 卜十郎後新左衛門 勤御番奉行

秀綱 半十郎 新左衛門

宗綱 半四郎圖書奉仕台德公 三千七百石を領す

清綱 半四郎奉仕 將軍家

盛綱 忠四郎 奉仕台德公大猷公

勝綱 國松元和元年七月十九日病死十八歲

忠綱 忠七郎元和九年七月二十二日死二十歲

治綱 半藏右馬允仕義直卿一万石を賜ふ是より三川水に悉し

吉綱 半之亟丹後守奉仕台德公一千石餘を賜ふ此末當時泉州伯太一万三千石是より三川水武鑑に悉し

創業錄 四卷 永祿十二年五月二十六日參州赤澁村に於て渡邊右衛門義綱卒す七十三歲廣忠公以來軍忠を竭して强弓精兵の譽あり八郎五郎と云

同錄 四卷 今日御當家三代功臣參州碧海郡浦邊の住士米津左馬介勝政卒八十三歲小太夫政信が老父なり

同 三卷 永祿六年六月二十五日渡邊次郎四郎氏綱卒す 七十五歲是は功臣源太左衛門範綱が長男なり

定國村社奉納鰐口銘三州碧海郡卜部莊渡邊兼綱敬白

享祿(中御門帝)四月四日とあり イニ寶德(後花園帝)二年にあり何れ是なり哉未得考

國正村古屋敷 渡邊忠右衛門田生記に記す 按に半藏守綱之嫡子忠右衛門重綱

寬永系圖に云 重綱初半藏後忠左衛門と號す生三州浦邊十五歲而奉仕

大權現小田原陣奥州攻關ヶ原陣皆供奉す慶長十五年蒙鈞命父と共に屬義直卿大坂兩度ともに供奉す元和六年父守綱死承鈞命拜領三州江州之地義直卿又命而令續家督合凡七千八百石

同甚五郎 田生記に出 按に源治道綱の孫源次有綱の子也

寛永系圖に云甚五郎長綱後清兵衛と號奉仕廣忠公天文十三年十一月三日死五十歳

大久保荒之介　出生記に出

平井甚右衛門　同上

定國村古屋敷　山本四兵衛出生記に云往古永井村の領主の由

以上二ヶ村二葉松に不載浦邊とばかりあり　右出生記に出づ

坂左右村	高四百九十石	岡崎領	
右之高寄	高三千五百三十七石三斗三升二合	寺社領	高四千百十七石八升九合
	高百三十六石一斗八升一合	御領所	高千石
	高百八石六升	松平監物	高千石
	高千八百一石八斗九升七合	松平縫殿助	高八十五石一斗八合
	高百六十二石	松平清兵衛	高千九百十二石三斗七升七合
	高百四十二石二斗九升二合	小島助左衛門	高七百石
	高二百五十七石一升六合	松平七藏	高二百八十四石五斗九合
	高千五百五十二石二斗六升	板倉内膳正	高二百三十九石五斗三升二合
	高二百石	山本四郎兵衛	高三千百七十三石四斗一升四合
	高二万十六石九斗七合	本多伊勢守	高三千三百八十八石四斗六升

御領所	松平新七十郎領	松平甚三郎	天野麥右衛門
大久保彦左衛門	戸田淡路守	松平庄右衛門	内藤左七
松平右衛門太夫	松平主殿		

村數　百五十四ヶ村

合　四万三千九十四石九斗六升三合

相高

郷帳外　秦梨子村

創業録一卷　參州額田郡秦梨子の住人粟生永信に感狀を授く

按東海名蹤圖會須賀とは東國の俗語に眞砂の聚たる所をいふ洲賀と書べし賀は助字也横須賀蜂須賀の類是なり修家と云も此意か後人の考をまつ

三河國郷帳目錄

須崎磯　小見行同上　寺部　懸村　中垣内　西戸城　中川
中村　八幡　小野谷　貝津當作門内　桑畑　上畑　森村
彦内地未詳　谷村　山口　鹿川　逆川　桐山或作切山　六栗上下
野塚　野崎　南永井三川堤北永井は額田郡に屬す　羽角上下　淺井西東　小島
高河原　江原　脇村　大和田　貝吹一作蔦　永良上下　駒塚
室村上中下　家武又作家竹　平原　米野　岡島　須美　宮迫
戸羽　宮崎　作ノ島海島堤に云東西廿一丁三丁　乙川磯　饗塚磯　小山田
酒井　中野　小薄一作小牧　友國　角ノ平或作津牧　駿馬　東條或作東城
瀬戸　善明　寺島　小牧　木田　岡山　蓮藏寺
横須賀　富田　荻原　吉田　大東　野田　對米
中田　篠曾根　善湖又作前後　横根或横手　天竹　鎌谷又作釜谷　小燒野
細池　鵜ケ池　十郎島　平口　須脇　齋藤　野々宮
市子　鉢ケ尻　赤曾根証曾根　池頭　一色磯　味濱磯　平島磯
下新居磯　道目記　贄池堤に熱池　川口　今川　矢田八田上下　寄近
長田　德次　深池　矢曾根　菱池　行用　針曾根
新在家　住崎　國森　羽塚　德永　苅宿磯　巨海磯
寺津磯　楠村　平坂港　田貫磯　中畑　法光寺　小間

羽角村　村順にあらず併郷帳に隣て是に記す　二樂松日上下あり　高七百二十五石九斗三升八合　岡崎領

氏神　上羽角松尾大明神　下羽角神明宮共無神主

同村出生村越茂助直吉同上　長門守御先祖の由今跡あり此人疎こつなる生と見えて慶長十九年正月十四日卒

舊記秘傳云　慶長五年庚子八月三十一日江戸の御使者村越英助濃州濱須へ着井伊直政本多忠勝に向て今度某御使に參る意趣は東國の大勢雖馳登遂に一戰の儀もなくして君の御出馬を急ぐ敵味方不分明何ぞ手切の合戰無之哉一戰無之内はいつまでも不可有御出馬各可被察心根と也直政忠勝是を聞て相構て其旨不可傳諸將只軍旅の辛勞被察近々可有出馬とばかり可申若此旨其方の誤にならば兩人速に可負其咎と申含む茂助從て其後福島正則が陣に集る直政忠勝茂助を誘ひ出る茂助御書を渡し各軍旅の勞を察入る近日出馬可有と云終て茂助思けるは我天性疎忽者也今度は大事の御使なり智慧秀才の人をこそ可被遣に某を被越は卒爾仰を云せん可爲思召と思ひ居ながら先に申しつるは御口上に非ず僞なり實各當地に有ながら何の働もなく敵か味方か不分明手切の合戰無之はいつ迄も御出馬有まじと也是にて内府の御心を御推察可有と云諸將暗然として不云直政忠勝手を握汗をかく時に福島致則一人座を起て茂助の側に寄り扇を披き茂助をあをぎ扨も〳〵能申つる物哉誠に諸將歴々當國に居敵目前に居れども一戰の手合もなし深哉德川殿御思應淺哉正則が愚汝が申述る故に心付たり一兩日中に岐阜の城を攻落しせめて眉目にすべし汝逗留して見物すべしと也茂助云我は使に來り城攻見物には不參と也井伊本多亦止之

武德大成記三卷　天文十一年壬寅十二月尾張の兵士上野の城を攻む既に城中に入んとす城主内藤彌次右衛門及其甥四郎左衛門十六歳進戰て數十人を射倒す尾州兵士進難く引退く其武功に感じて三州羽角の鄕を賜る山本氏の補に見えたり

愚按廣忠公より羽角を賜る也

内藤四郎左衛門同上云外記殿御先祖之由　内藤四郎左衛門政成と號一作長　後に右京亮に改む弱年の間伯父清之長とともに上野の城に居住す

筧永系圖に云　天文十一年十二月廿四日夜有盜號新兵衛襲上野城已破廊外入于丸政成十六歳彎强弓拒賊等被疵死傷之者及

二百人璽日謁于廣忠公大感之賜三州羽角

永祿六年三州一向一揆時石川十郎衛門　政成伯父

渡邊源五左衛門直先進近家康公于時政成侍旗下放矢射石川兩股石川落馬忽損命其後參州八幡合戰姉川合戰遠州入味方原長

篠長久手皆爲勇戰顯武名　天正十八年關東御入國時武脇第間五千石賜

慶長七年四月十三日於柏間病死七十八歲　法名善宗　系傳碧海郡小川村に出す又三川水に悉し

按に正成は內藤大和守先祖也

中　隣　村　今中川　高百七石九斗九升　松平右衛門太夫領

中　村　高百三十五石九斗五升六合　同

氏神　白山

八幡村　高百五石五斗五升八合　同

氏神　八幡宮

小野谷村　刪日をのかり　高五十四石六斗九升　同

氏神　八幡宮

かいと村　今川門內二葉松作貝津　高二百四十五石六斗七升　同

氏神　白山社

桑畑村　高二百五十四石五斗二升三合　同

上畑村　高二百七十六石七斗五升　同

氏神　山王世話人久太夫

森　村　高百二十七石一斗四升九合　同

氏神　若宮八幡世話人勘八